

殷亮いんりやうに贈おくる

戴たい叔倫しゆくりん

日日ひび河か辺へんに水みづの流ながるるをみ見みる

春はる傷いたむ未いまだや己まがらに復またあ秋あき悲かなしむ

山さん中ちゆうの旧きゆう宅たく人ひとの住すむ無なく

風塵ふうじんに來らい往おうして共ともに白はく頭とう

【作者】戴叔倫（七三二〜七八九年）、中国・唐の詩人。字は幼公（ようこう）、または次公（じこう）。潤州金壇（江蘇省）の出身。

安史の乱の兵乱を避けて波陽（江西省）に移住し、もっぱら学問に励み、蕭穎士の門下に入って随一と謳われた。貞元十六年（八〇〇年）、進士に及第、杭州新城県（浙江省富陽）の令などを務め、真面目な勤務ぶりを認められて、撫州（江西省臨川）刺史・容州（広西壮族自治区容県）刺史兼本管経略使を歴任、善政を敷いて住民に慕われた。のちには辞職して道士となったが、間もなく死んだ。今、『戴叔倫』二巻が残っている。

【参考】章応物らとともに中唐初期にあって、五言詩を得意とし、田園、山林を詠じ、閑雅な幽情を叙した詩が多い。